

## 病院情報の公表の集計条件等について

### 1. 目的

病院情報の公開について、以下の通り目的を設定する。

- ・医療機関の DPC データの質の向上
- ・医療機関の DPC データの分析力と説明力の向上

### 2. 集計項目

- 1) 年齢階級別退院患者数
- 2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位 3 位まで）
- 3) 初発の 5 大癌の UICC 病期分類別ならびに再発患者数
- 4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等
- 5) 脳梗塞の ICD10 別患者数等
- 6) 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位 3 位まで）
- 7) その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

### 3. 集計条件および集計方法

#### 《共通項目》

- ・使用するデータ
- ・様式 1・様式 4・D ファイル
- ・集計条件
- ・様式 1
  - ・年度内の退院患者であり、一般病棟に 1 回以上入院した患者  
例) 平成 27 年度：平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで
- ・入院した後 24 時間以内に死亡した患者又は生後 1 週間以内に死亡した新生児は集計対象外
- ・臓器移植は集計対象外
- ・様式 4
- ・医科レセプトのみもしくは歯科レセプトありの患者
- ・集計方法並びに解説  
単に数値を示すだけでなく、定められた範囲内で特性等について必要にして十分な解説を行う。
- ・患者数
- ・親様式のみを用いてカウントした患者数とする
- ・\*10 未満の数値の場合は、-(ハイフン)を記入。  
例えば、「2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位 3 位まで）」において、患者数が 10 未満の場合は、「患者数」にはハイフンを入力し、「平均在院日数（全国）」以外の項目にも、同様にハイフンを入力する。
- ・在院日数
- ・在院日数は、親様式の様式 1 開始日から様式 1 終了日までの日数とする

#### 《個別項目》

#### 1) 年齢階級別退院患者数

- ・一般病棟の年齢階級別(10 歳刻み)の患者数を示す。年齢階級は 90 歳以上を 1 つの階級として設定する。

#### 2) 診断群分類別患者数等（診療科別 患者数 上位 3 位まで）

各診療科別に患者数の多い DPC14 桁分類について DPC コード、名称、患者数、自院の平均在院日数、全国の平均在院日数、転院率、平均年齢、患者用パス（任意）、解説を示す。

- 一般病棟の中における転科においては、主たる診療科は医療資源を最も投入した傷病の担当医が所属する科で集計。
- ・ 同一疾患に対し複数科で診療を行った場合も、様式 1 に登録されている診療科（医療資源を最も投入した傷病の診療を担当した医師の所属する診療科）で集計。
- 3) 初発の 5 大癌の UICC 病期分類別ならびに再発患者数
- ・ 5 大癌について初発患者は UICC の TNM から示される病期分類による患者数を、再発患者（再発部位によらない）は期間内の患者数とする。患者数は延患者数とする。
- 4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等
- ・ 成人の市中肺炎（平成 27 年度様式 1 の肺炎重症度分類の 7 桁目＝5 に相当）につき、重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を示す。
- 5) 脳梗塞の ICD10 別患者数
- ・ 脳梗塞の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を示す。最も医療資源を投入した傷病の ICD10 (G45\$,G46\$,I63\$,I65\$,I66\$,I675,I679) 別に集計する。
- 6) 診療科別主要手術 別患者数 等（診療科別症例数上位 3 位まで）
- ・ 同一手術において複数の手術手技を行った場合、主たるもののみカウントする。複数の診療科に転科している患者がそれぞれの科で手術を行った場合術前日数は、様式 1 にある「医療資源を最も投入した傷病名」の診療科として、主たる手術のみをカウントする。診療科別に手術件数の多い順に 3 術式について、患者数、術前日数、術後日数、転院率、平均年齢及び患者用パス（任意）を示す。輸血関連（K920\$）、創傷処理、皮膚切開術、非観血的整復術、徒手整復術、軽微な手術およびすべての加算は除外。
- 診療科名は「2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位 3 位まで）」と同様の取扱いとする。
- 7) その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）
- 「DIC 発生率の症例数」を算出する場合は、子様式がある場合は子様式を用いて症例数をカウント。具体的には、様式 1 の病棟に関するフラグにおいて、「調査対象となる一般病棟への入院の有無」が「1」、かつ「調査対象となる精神病棟への入院の有無」が「0」、かつ「調査対象となるその他の病棟への入院の有無」が「0」のレコードを 1 症例としてカウント。様式 1 の精度向上を図るために、個々の様式 1（子様式がある場合は子様式）の最も医療資源を投入した傷病名が播種性血管内凝固(DPC6 桁 130100)、敗血症(DPC6 桁 180010)、その他の真菌症(DPC6 桁 180035)、手術・術後の合併症(DPC6 桁 180040) について、入院契機病名(DPC6 桁レベル)の同一性の有無を区別して症例数をカウントする。同一性の有無とは、上記 4 つの各医療資源最傷病の症例(DPC6 桁レベル)について、様式 1 の入院契機傷病名に対する ICD10 コードが、下記表の医療資源最傷病名に対応する ICD10 コードに該当している場合は「同一」とする。同一性の有無を区別した各症例数（個々の様式 1 ベース）の、全退院患者数に対する発生率を示す。
- ・ 手術・処置等の合併症についても、誤解を与えないようその内訳を説明に記す。

「平成 28 年度病院情報の公表の集計条件等について」より抜粋